



せと じきかいはつ もの ものがたり
瀬戸の磁器開発と「せと者」たちの物語

じそ
磁祖

民吉物語

たみきちものがたり



瀬戸の磁器開発と「せと者」たちの物語

磁祖 民吉物語

たみきちのものがたり



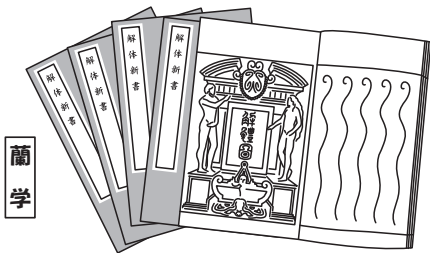
※「民吉物語」は、諸説ある資料を基にして、
わかりやすく民吉の一生をまとめたものです。

■イラスト 松永清美



大飢饉がおこり、各地で
百姓一揆がおこっていた。

百姓一揆



蘭学

「蘭学」と呼ばれた西洋の学問が
鎖国をしていた日本に入ってきた。

民吉が活躍したのは、江戸時代、
19世紀はじめのこと。
戦乱がなくなつて二百年近くたち、
江戸・大坂(現在の大阪)を中心に、
産業の中心が農業から商業へと
移つていった時代だった。

その頃、瀬戸では……。



民吉を知っていますか？

今から約二百年前の江戸時代、
磁器の技術を瀬戸にもたらした
加藤民吉。

陶器のみを

つくっていた瀬戸は、

民吉が九州から持ち帰った

磁器づくりの方法によって、

やきもののまちとして再び

発展します。

これは、民吉と、

彼を支えた仲間たちの物語です。

瀬戸で
生まれ育ち
ました

民吉は

案内人



おじさん
瀬戸のことなら
何でも知っている
物知りおじさん。

民吉さんのことは、
小さな頃から
聞いて育ったんだよ



陶子
瀬戸に住む好奇心
旺盛な女の子。

自分が生まれ育った
瀬戸について、
もっと知りたいな!

瀬戸焼の新展開

昔から陶器づくりを中心として栄えてきた瀬戸。やきものの産地として、全国的にたいへん有名だった。

しかし、江戸時代のはじめに九州の有田で磁器づくりがはじまりしばらく経つと、日本各地に磁器が広がっていった。



～当時の主要な磁器生産地～



磁器の人气が高くなると、陶器の売上が伸びなくなった。凶作や飢饉が続いたこともあり、瀬戸や瀬戸を治める尾張藩にとって、他国をしのぐやきものが求められていた。

「陶都」と呼ばれる瀬戸



どうして瀬戸でやきものづくりが盛んになったの？



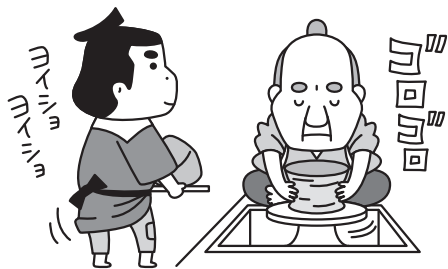
瀬戸にはやきものの原料になる粘土が豊富にあったからだ。鎌倉時代に宋(中国)で陶器の技法を学んだ加藤四郎左衛門景正(通称・藤四郎)が陶器にふさわしい土を探した結果、瀬戸の祖母塚で見つけ、やきものづくりをはじめたといわれているんだよ。瀬戸では藤四郎は「陶祖」と呼ばれ、その功績をたたえる陶祖碑も立てられているね。

民吉、瀬戸に生まれる

そんななか、瀬戸の窯元のひとつ大松窯の吉左衛門の家(現在のパルティセとの北側近くにあった)に、明和八年(一七七二)一人の男の子が誕生した。名前は松次郎(後に民吉と改名)、次男坊だった。



瀬戸の多くの家と同じように、民吉も陶器に囲まれて育ち、家業を手伝ううちに、自分もやきものをつくる職人として生きていくと自然に思っていた。



しかし当時の瀬戸では、長男だけが窯を継ぐという決まりだった。吉左衛門は長男に窯を継がせると、享和元年(一八〇二)民吉とともに、瀬戸を出て行き、農民になることにしたのだった。

吉左衛門

民吉



民吉が瀬戸を出た理由

民吉さんたちは、どうして瀬戸を出ていかなかったの？



その頃瀬戸の窯元では、長男だけが家を継いで、窯を増やしてはいけないというルールがあったからなんだよ。磁器の技術がなかった瀬戸では、窯元の数を増やさないようにすることでやきものの値段が下がらないようにしたんだよ。その結果長男以外は他の仕事をすることになったんだね。だから、みんなが瀬戸で暮らして続けられるような新しい仕事を求められていたんだ。



たみきちのうみん
民吉、農民になる

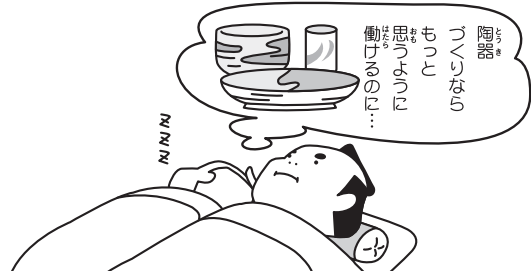
瀬戸を出た民吉たちは、名古屋の熱田前新田（現在の港区）の開発に取り組んだ。農民として新たな生活がはじまった。



なれない仕事だったが、生活のため、ひたすらがんばるしかない民吉たちだった。



瀬戸で生まれ育った民吉は、土地を耕す暮らしのなかで、長年身につけた陶器づくりへの想いを強くしていった。



瀬戸のやきもの
づくりの変遷

瀬戸でやきものが
はじまったのは、
いつなの??

平安時代に「釉薬」(*)を使った陶器がつくられはじめたんだ。江戸時代に、民吉さんたちによって磁器づくりの方法が伝わり、陶器と磁器の両方がつくられるようになったんだ。最近では、フラインセラムシウスも取り入れて、瀬戸のやきものは時代ごとに技術革新を続けながら成長しているんだよ。



※釉薬...「うわぐすり」ともいう。やきものを覆っているガラス質の膜。釉薬をかけることで汚れにくく、丈夫で水もれがしにくい。釉薬に含まれる金属によってさまざまな色や模様をつけることができる。

じき
で
あ
い
磁器との出会い

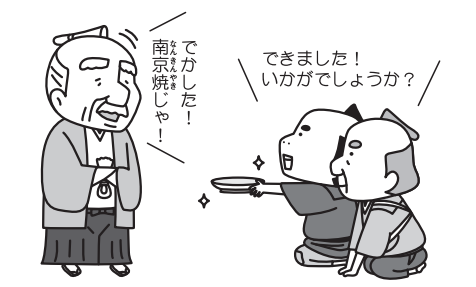
ある日、新田開発の様子を見回っていた、尾張藩熱田奉行の津金文左衛門胤臣は、なれない手つきで農作業をする民吉家族に気づいた。



民吉二家が瀬戸出身でやきものづくりをしていたと知った文左衛門は、尾張藩ではつくられていなかった南京焼(磁器のこと)について書かれた中国の本を持っていったことから、民吉たちにつくり方を研究させ、うへせのことにした。



文左衛門のおかげでやきものづくりがまたできるようになった民吉は、磁器を研究していた文左衛門の教えで、瀬戸村に通いながら父の吉左衛門と試作を重ねた。そしてついに磁器が完成!

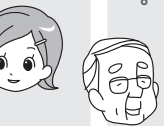


たみきち
みいだ
めいぶ
なまふ
名奉行
民吉を見出した

津金文左衛門のおかげで、民吉さんはまたやきもの仕事ができるようになったのね。



尾張藩内でも人望の厚かった名奉行の一人で、磁器の技術を導入しようと考えていた人なんだよ。民吉さんと磁器を結びつけた人物でもあり、この出会いが民吉さんの運命を大きく変えたんだね。



民吉さんにとっては、
恩人なのね。

そうだね。文左衛門が亡くなった後は、子の庄七がその想いを受け継ぎ、親子二代にわたって民吉さんたちを助けてくれたんだ。



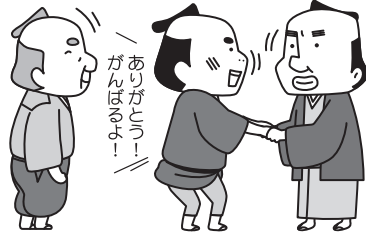
ペンにも負けない
やきものを！

民吉一家は瀬戸村の庄屋・加藤唐左衛門らの力添えによって、熱田前新田から瀬戸に戻り、磁器づくりを行うことが出来るようになった。

瀬戸で磁器を
焼いてくれ！

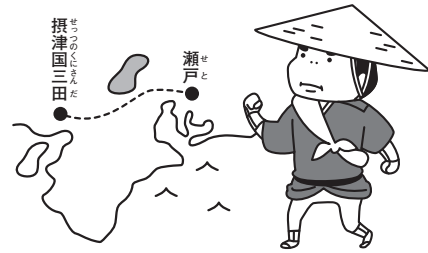
加藤唐左衛門

ありがとー！
がんばるよー！



しかし民吉たちがつくる磁器は、当時磁器として最も有名だった有田焼とは何かが違う。唐左衛門や民吉たち、瀬戸の窯仲間と相談した結果、民吉が代表となり、その答えを求めて、撰津国三田（現在の兵庫県三田市）へ向かった。

しかし民吉たちがつくる磁器は、当時磁器として最も有名だった有田焼とは何かが違う。唐左衛門や民吉たち、瀬戸の窯仲間と相談した結果、民吉が代表となり、その答えを求めて、撰津国三田（現在の兵庫県三田市）へ向かった。



三田で、瀬戸にはない窯を見て帰ってきたものの、やはり、有田焼のような磁器をつくることはできなかった。このとき、窯元の仲間たちの想いはいっしょだった。

みんなで瀬戸を
なんとかしよう！

どこよりもすばらしい
磁器をつくりたい！



陶器と
磁器の違い

陶器と磁器って、
何が違うの？

原料が違うんだよ。
昔から陶器は「土」の「器」、磁器は「石」の「器」といわれていて、陶器は粘土・磁器は石と粘土からつくられるんだよ。



※技術の進歩により、一般的に、陶器と磁器では、強度にそれ程、差はなくなってきた。

TOPICS

三田修業(さんだしゆぎょう)

兵庫県三田市は、青磁で有名な三田焼の産地である。三田焼は江戸時代に始まり、寛政11年(1799)には磁器の生産を始めた。当時は各地の窯の名工たちとの交流もあったとされる。民吉は享和年間(1810)に丸窯の製法を学び、三田を訪れたが、十分に学ぶことはできず、後に九州へ修業に赴くことになった。

瀬戸の未来を
託されて

やはり磁器の本場・九州へ行き、つくり方を学んでくるしかない。
白羽の矢は、民吉に立った。



しかし、自由に藩を出られない時代。唐左衛門や津金文左衛門の息子津金庄七らの支援のおかげで、藩の許可を得ることができ、旅の費用も集まった。
民吉は決意を固めた。



菱野村(現在の瀬戸市新田町)出身で、子どもころ瀬戸の窯元で働いていたこともある天中和尚が、肥後国天草(現在の熊本県天草市)の東向寺にいたことがわかり、民吉は和尚を頼ることにして、準備を整えた。



民吉と
仲間たち

民吉さんの九州行きには、みんなの想いや期待が込められていたのね。

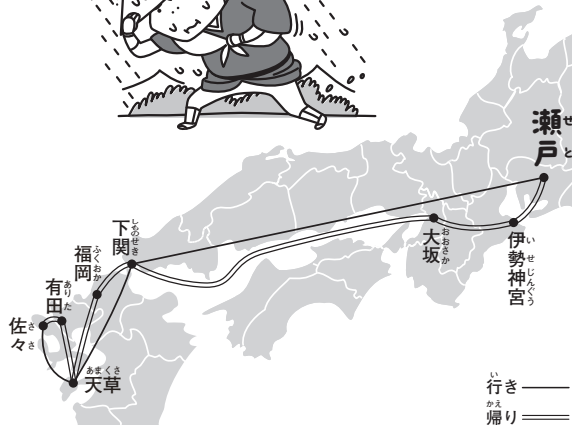
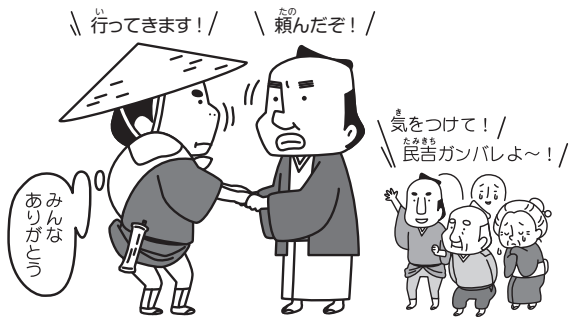


なかでも、庄屋の唐左衛門は、瀬戸の窯元や

やきもの職人たちをまとめて尾張藩と話し合い、瀬戸のために働いたんだ。そんな唐左衛門をはじめ、みんなが『瀬戸を救いたい』という気持ちで団結、協力して、民吉さんの九州行きが実現できたんだね。



文化元年(二八〇四) 2
月22日。家族や仲間たちが
見送るなか、いよいよ
九州へ出発。



瀬戸からは、川名村(現在の名古屋市昭和区)の香積院の修行僧と一緒に下関(山口県)へ。下関からは、一人で九州へと向かった。電車も車もない時代。民吉はひたすら歩き、苦しいときもみんなの励ましを思い出して、一路九州を目指した。

長旅に伴う困難

瀬戸から九州まで
歩くなんて考えられない!
どれくらいかかったのかな?



徒歩と船で、
およそ1カ月かかったそうだよ。
見知らぬ地へ行くという
不安もあったし、道中は
言葉も習慣も違う。
また誰もが自由に旅行できる
時代じゃなかったから、
関所の調べもあるし、
山賊や強盗などの危険も
考えられたらうね。



旅の苦労は今とは比べもの
ならなかったらうね。

私だったら、不安だし怖いし、
そんな勇気が
あるかしら……



当時の技術の守られ方

なぜ民吉さんの
修業先がなかなか
決まらなかったの?



当時の藩は、
独立した国家のようなもので、
自分たちの暮らしを守るために
必死だったんだ。部外者は厳しく
監視され、特別な技術などは
決して他人に教えてはいけな
されなかったよ。

そのため、よそ者をおいておく
罰せられる地域もあったんだよ。
民吉さんが後に、『産業スパイ』
といわれたのも、こういった
背景があったからなんだね。
もちろん民吉さんは身分を明か
して技術を教わったから、
スパイでもなんでも
なかったんだよね。

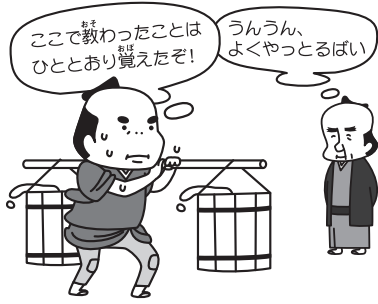


九州に到着したものの……

九州に到着し、ようやく
天草の天中和尚を訪
ねることができた民吉。
3月27日、和尚の紹介で、
天草の磁器・高浜焼の窯
元上田宜珍のもとで働
くことになった。



民吉は、瀬戸村の出身
だと正直に身分を明か
し、修業させてもらった。



しかし、働くうちに、肥
前(現在の佐賀県・長崎
県のあたり)のやきもの
づくりを学びたいと強
く思うようになった民
吉。天中和尚に修業先を
相談し、窯元を探した。

働かせてください!



福本仁左衛門

半年で上田家をでた
民吉は、修業先を点々と
し、肥前国佐々皿山(現
在の長崎県北松浦郡
佐々町)の福本仁左衛門
の窯に行き着いた。
文化元年(二八〇四)
12月28日、あたたかく迎
えられ、ついに落ち着き
先が決まった。

ウチでやってみるか?

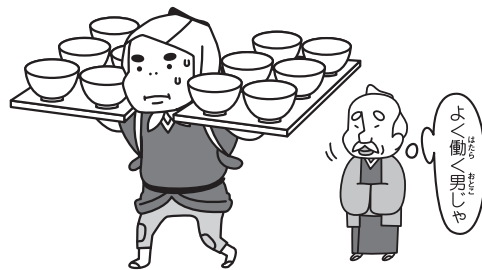
福本仁左衛門との
親交

仁左衛門の窯では、一日三百個ぐらゐの茶碗をつくり、その出来栄はすばらしいものだった。



見事な
仕上がりじゃー...

やきものにかける民吉の熱心さやまじめな人柄と働きぶり、そして、その腕前に、当主の仁左衛門は大いに感心した。



みん動く男じゃー

仁左衛門はある日、民吉に留守を任せて、2カ月間伊勢参りの旅に出かけた。



へい！行ってらっしゃい！！

みなもの者
留守は民吉に
任せるつもり

磁器のつくり方を
マスター

仁左衛門から留守を任されたことよって民吉は、磁器のつくり方を職人たちからより詳しく教わる事ができた。



こればね
つくりな

うんっん
な

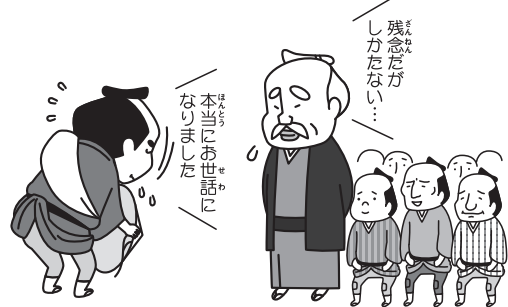
この2カ月で、民吉はすべての技術を身につけた。少しでも早く瀬戸の仲間へ技術を伝えられたが、親切にしてくれた仁左衛門のことを思うと、すぐに帰ることはできなかった。



お帰りなさい！

瀬戸へ早く帰らねば
お声は早く

せめて恩返しをしよう
と、民吉はそれから約1年間懸命に働いた。文化4年（一八〇七）1月7日、惜しまれながら福本家を去った。



残念だが
しかたない...

本当にお世話になりました

歌舞伎に
演じられる
民吉は悪人？

民吉さんを題材にした歌舞伎の副題に「佐々の悪魔、瀬戸の窯神」ってあるけど、なんで悪魔なの？



歌舞伎では民吉さんは、九州で結婚して人々を安心させながら、技術を身につけると、子どももいたのに瀬戸へ逃げ帰ったとされているんだよ。



え、そうなの？



いやいや、この話は作り話なんだよ。



民吉さんは産業スパイではないし、佐々で結婚したというのも嘘なんだよ。

心強い存在
天中和尚

瀬戸の隣村出身だった天中和尚は、民吉さんにとって心強い存在だったんだろうね。



民吉さんが九州で動き回れたのも、窯元を紹介してくれるよう天中和尚が各寺院の和尚たちに頼んでくれたからなんだよ。
福本家を去るときには、仁左衛門に引きとめられ困った民吉さんのため、瀬戸から「早く帰って来てくれ」と催促の手紙を用意してもらって、瀬戸に帰れるようになってくれたんだ。
天中和尚がいなければ、民吉さんは九州で技術を学ぶことはできなかつたんだよ。

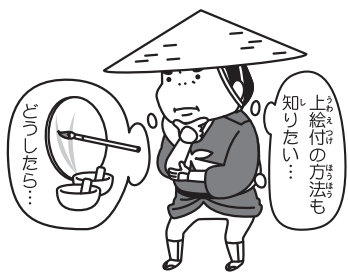


※昭和2年、歌舞伎「佐々の悪魔・瀬戸の窯神」
「明暗縁染付（ふたおもてえにしのおめつけ）」
がつくれ大阪で上演されている。

何とか上絵付けを学びたい

本場の磁器のつくり方を学んだ民吉。唯一の心残りはお絵付けの技法を学んでいないことだった。そこで、有田へ行くことにした。

※上絵付け：磁器に模様を描いて、もう一度800度位で焼き付ける方法。



よそ者には口のかたい有田の職人たち。そこで民吉は、天草出身と身分を偽って上絵付けの技法を教えてもらおうとした。



民吉の作戦は失敗し、上絵付けは学べなかったが、代わりに丸窯(登り窯)のつくり方など自身につけた。



ついに上絵付けの身につける

瀬戸へ帰る決心をした民吉は、最初に世話になった天草の上田宜珍のもとへあいさつに行った。

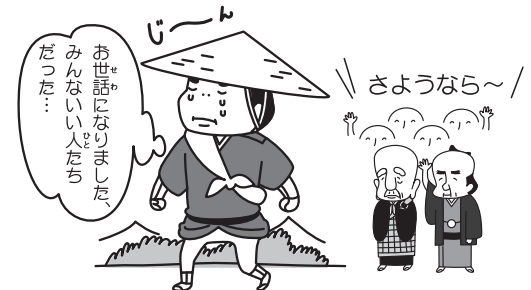


上絵付けの技法を知りたくて、天草の名を利用したことを正直に話し、謝る民吉。その姿に心打たれた宜珍は、秘伝の上絵付けの技法を教えてくれた。

民吉の熱意には負けきれず、上絵付けの技法を伝授しよう



民吉は、ついに目的を告げて瀬戸へ帰ることと。瀬戸へ行きたいという、天草のやきもの職人一人を連れて、文化4年(一八〇七)5月13日天草を出発した。



技術スパイは重罪だった!?

よその土地で技術を学んで、そんなに危険なことだったの?



それはもう、民吉さんが九州に行く少し前に副島勇七という磁器職人が肥前の窯場を脱出して瀬戸へ逃げてきたことがあったと言われているんだ。ところが、藩から派遣された役人に捕まって連れ戻され、殺されたとされているんだよ。



そんな恐ろしいことがあったのね。本当に命かけて、今では考えられないことね。

民吉の誠意

民吉さんは、九州でいろいろな人に助けられたのね。



民吉さんの、やきものつくりへの真剣な態度や熱心さ、それに何より瀬戸のため、待っている仲間たちのためという熱い気持ち、人びとの心に通じたんだね。その結果、技法を教えてもらうことができたんだろうね。

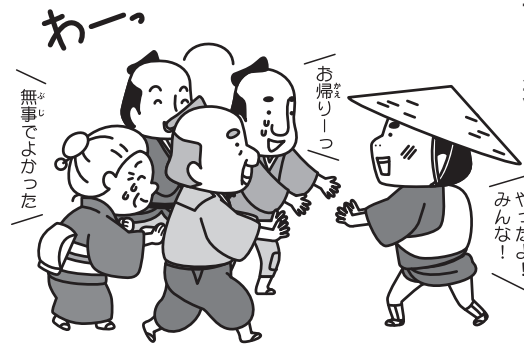


TOPICS

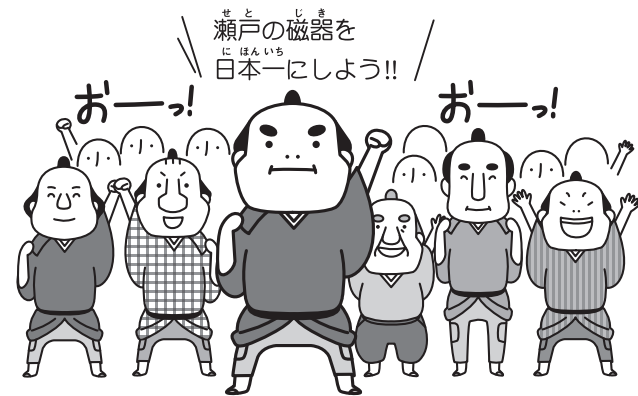
残心の杉(ざんしんのすぎ)
長崎県北松浦郡佐々町の市ノ瀬血山公園(当時福本家のあった所)には、民吉が佐々を去る際に記念に植えたといわれる杉の大木があり、「残心の杉」と命名されて大切にされている。この杉の枝を取り寄せ、現在の東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林の指簿で挿し木をして育て、2007年に民吉九州修業200年を記念し、植樹した。「残心の杉」2世は、霊神社社をはじめ、瀬戸市内数カ所にある。

瀬戸発展に向け

文化4年(一八〇七) 6月18日
 民吉は修業の旅を終えて瀬戸に戻った。家族や友だち、職人仲間など、なつかしい顔ぶれが民吉を出迎えた。



磁器のつくり方と職人を連れての帰郷に、瀬戸の人びとは大いに喜んだ。
 民吉は、持ち帰った技術をもとに、仲間たちと磁器づくりに励んだ。



帰郷後の民吉

磁器のつくり方を瀬戸へもたらした民吉さんは、その功績で藩から「加藤」の苗字を許されたのね。



身分制の厳しい時代に、職人だった民吉さんが苗字を許されるというのは、とても名誉なことだったんだよ。さらに扶持(給料)も与えられた。民吉さんの功績は、それほど大きなものだったんだね。



その後の民吉の活躍

磁器を焼くのに必要な丸窯のつくり方を伝え……。



磁器を自分でつくるのはもちろんのこと、仲間たちに指導して磁器のつくり方を広めた。



九州で学んだ上絵付の技法と蹴口クロ(足で回す口クロ)を瀬戸に伝えたが、瀬戸で定着することはなかった。



瀬戸に残る民吉の偉業

民吉さんは、勢いが衰えた瀬戸のまちを救った人物として、今も瀬戸の人びとの誇りなんだ。業神社にまつられて、境内には立派な銅像も立ってる。瀬戸が現在にいたるまで「やきものまち」として栄えてきたのは、民吉さんのおかげもあるんだよ。



すごいな。民吉さんの想いは、今も瀬戸の人びとの心に生きてるのね。



よみがえる 「やきものまち」瀬戸

民吉はじめ、たくさん
の人びとの努力が実り、
瀬戸はやきものまちと
してかつての栄光を取り
戻したのだった。

藩が直接やきものを
取り扱ったことで、江戸・
大坂・京都を中心に各地
で売れた瀬戸のやきも
のは、九州の有田焼をこ
えて「三国」と称えら
れた。

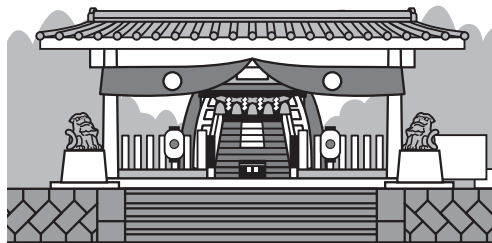
※三国…日本・唐（中国）・天竺（イ
ンダ）の中で一番おいしい意味。
※「三」の意。

九州から戻って17年、
ひたすら瀬戸のやきもの
づくりに尽力した民吉
は、文政7年（一八二四）
にこの世を去る。



民吉の亡くなった後、
人々はその功績を称えて
窯神として祀った。

窯神社



せともの祭

せともの祭は民吉さんと
関係があるものなの？



せともの祭は、
民吉さんを称える祭で、
毎年9月の第2土曜・日曜日
に行われる瀬戸最大のお祭りだよ。
全国から来るお客さんに瀬戸焼の
すばらしさを知ってもらおうと
いうもの。ちなみに、
雨に降られることも多いため、
「民吉が九州に残した
妻子の涙だ」

といわれるのも、作り話だね。
やきものことを「せともの」
といっように瀬戸には、
世界に誇れる技術とそれを
受け継いできた心があることを
このせともの祭の機会に
みんなに知ってほしいね。



その後の瀬戸焼

明治時代から現在まで

も瀬戸は、やきものまちとして発展してきた。
その後、陶器や磁器でさまざまなやきものがつ
くられ、世界中に輸出され、日本のやきものづく
りをリードしてきた。

現在でも伝統的なやきものや現代陶芸作品の
ほか、工業的なやきものも製作され、やきもの
まちとして続いている。



現在では瀬戸で

培われてきた技術が、
携帯電話や

コンピューターなど
最先端の電子機器に
活かされているんだね。



瀬戸の技術が
世界で評価されて
いるんだ！



民吉が「学び」

目標

どこよりもすばらしい
磁器をつくりたい！



九州へ学びに行くのは
民吉が通任だろう！

よし！わかった！
みんな任せてくれ！



仲間

誠実



民吉さんって、
特別な才能があったり、
はじめから
はつきりとした
大きな目標が
あったわけでは
ないのよね。



そつだね。
瀬戸でやきものを
続けたいという想いを
仲間と共有することで
目標がはつきり
したんだね。そして、
何事にも誠実に
対応した結果、
大きな夢をみんなと
かなえることが
できたんだね。



磁祖
加藤民吉翁



主要参考文献

- 「不況大突破 瀬戸の民吉」 加藤徳夫 (株)叢文社 2001年
- 「瀬戸染付の全貌 世界を魅了したその技と美」 (財)瀬戸市文化振興財団 2007年
- 「民吉街道 瀬戸の磁祖・加藤民吉の足跡」 加藤庄三 東峰書房 1982年
- 「江戸時代 人づくり風土記 23 ふるさとの人と知恵 愛知」
会田雄次 大石慎三郎 (社)農山漁村文化協会 1995年

磁祖 民吉物語 瀬戸の磁器開発と「せと者」たちの物語

- 2007年8月 第1刷発行
- 2007年9月 第2刷発行
- 2009年3月 第3刷発行
- 2024年9月 改訂刷発行

- 監修 山川一年 (元瀬戸市歴史民俗資料館館長)
- 発行 瀬戸商工会議所 瀬戸キャリア教育推進協議会
- 編集 特定非営利活動法人アスクネット
- 制作 双双編集
- 取材協力 窠神社崇敬会
- 改訂発行 磁祖加藤民吉顕彰事業実行委員会
- 助成 公益財団法人瀬戸信用金庫地域振興協力基金

